

[ホンダ/アキュラ] CVT 傾斜センサ学習 (例 : N-BOX JF1)

概要

以下の項目にいずれかひとつでも該当する場合は、TPM-R を使用して PGM-FI ECU に傾斜センサ学習を行って下さい。

- PGM-FI ECU を交換した場合
- 傾斜センサ (VSA モジュレータ コントロール ユニット内蔵) の脱着または交換した場合
- 傾斜センサ出力異常を検知した場合

注意 :

- 作業は乗員 1 名で行い、学習中は車両を振動させないこと。
- DTC を検知している場合は故障箇所の修理を行った後にこの学習を行うこと。

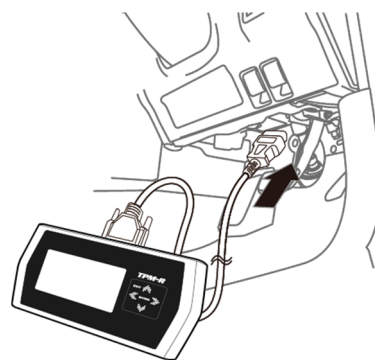
参考 :

- 傾斜センサ学習を行わない場合、コンビネーション メータ内の R 表示灯が点灯または点滅する可能性があります。
- この学習を行うと PGM-FI ECU にメモリされたクリープ制御に関する走行情報は消去されます。クリープ制御に関する走行情報は、車両側で自然に学習されます

操作

1. パーキング ブレーキをかけます。
2. タイヤの空気圧が基準値であることを確認して下さい。(車両のタイヤ ラベル参照) 基準値から外れている場合は、空気圧を基準値に調整して下さい。

3. イグニションスイッチを "LOCK" (OFF) 位置にした後、ダイアグコネクタに TPM-R を接続します。その後イグニションスイッチを ON にします。



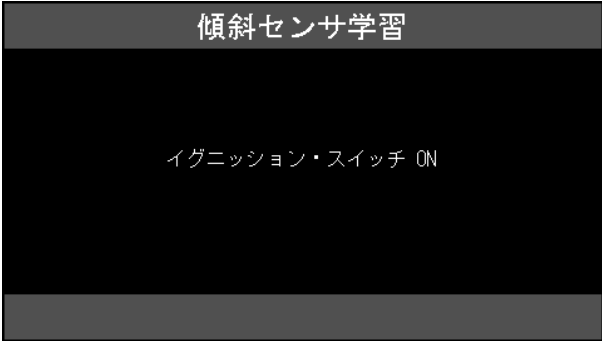
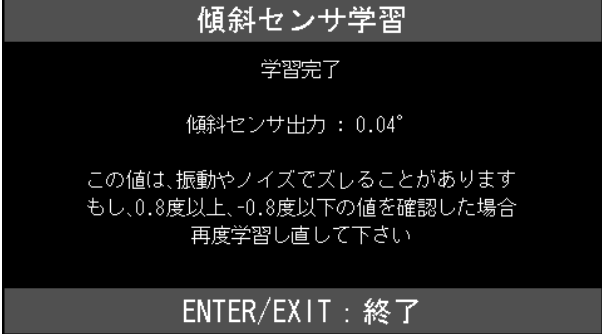
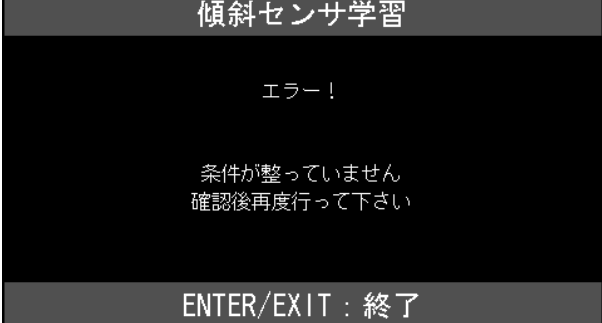
4. 『メーカー選択』画面から [国産乗用車] - [ホンダ/アキュラ] を選択して [ENTER] をタップします。

メーカー選択	
国産乗用車	トヨタ/レクサス
輸入車	日産/インフィニティ
国産トラック	ホンダ/アキュラ
OBDII	三菱
	スズキ
	ダイハツ
	マツダ
	スバル

ENTER : 選択 EXIT : 戻る

<p>5. 車両情報を特定するための通信をしますので、しばらくお待ち下さい。</p>	
<p>6. 車両情報が正しいか確認して、[ENTER] をタップします。</p>	
<p>7. 『ホンダ メインメニュー』画面で [作業サポート] を選択して [ENTER] をタップします。</p>	
<p>8. 車両搭載システムの確認が始まります。</p>	
<p>9. 『作業サポート』画面から [AT/CVT] を選択して [ENTER] をタップします。</p>	

<p>10. 『AT サポート』画面から 傾斜センサ学習 を選択して [ENTER] をタップします。</p>	
<p>11. 傾斜センサ学習の条件についての説明が表示されるまで、条件を確認して [ENTER] をタップして下さい。</p>	
<p>12. 傾斜センサの学習が開始されます。</p>	
<p>13. 「イグニッション・スイッチ OFF」の画面が表示されましたら、イグニッションスイッチを“LOCK”(OFF)位置にして下さい。 (車両の操作で自動的に画面が変わります。)</p>	

<p>14. 「イグニッション・スイッチ ON」の画面が表示されましたら、イグニッションスイッチをONにしてください。 (車両の操作で自動的に画面が変わります。)</p>	 <p>傾斜センサ学習</p> <p>イグニッション・スイッチ ON</p>
<p>15. 「学習完了」の画面が表示されましたら、傾斜センサ出力の値が$\pm 0.8^\circ$以上である場合は、最初からやり直してください。</p>	 <p>傾斜センサ学習</p> <p>学習完了</p> <p>傾斜センサ出力 : 0.04°</p> <p>この値は、振動やノイズでズれることがあります もし、0.8度以上、-0.8度以下の値を確認した場合 再度学習し直して下さい</p> <p>ENTER/EXIT : 終了</p>
<p><u>エラー</u></p> <p>通信に失敗すると、右の画面が表示されます。条件などを確認してもう一度行って下さい。</p>	 <p>傾斜センサ学習</p> <p>エラー!</p> <p>条件が整っていません 確認後再度行って下さい</p> <p>ENTER/EXIT : 終了</p>